「おいもほり」

安東 子加（あんどう　みか）５歳

しんかくじこども園（京都教区）

●表紙のことば●

大橋（おおはし）　功（いさお）

和歌山信愛大学

大きな芋から小さな芋まで、様々な大きさの芋が土の中に埋まっているように描かれています。よく見ると、芋から蔓が伸び、葉の付いた地上の蔓へとつながっています。また、みかさん自身でしょうか、足下の土の中には虫も描かれています。実際にその場で描いた絵ではありませんが、描きながら「虫も出てきたなぁ」と思い出して描いたのかも知れません。蔓に手を伸ばし、楽しそうに、今まさに芋を掘ろうとしているかのように描いています。

実際は、保育室で、蔓でつながった状態の芋をこどもたちの目の前に置いて見ることができるようにしたそうです。幼児は、観察して再現的に、つまり本物そっくりに芋を描こうとしません。しかし、実際に経験したことでも、いざ描こうとすると思い出せない、何をどう描いて良いか分からないということはあります。先生は、蔓でつながっている芋を目前に置く事で、その時のことを、視覚だけで無く身体感覚も含めて楽しく思い起こせるようにしたのです。